



2012年5月14日



会社名 昭和電線ホールディングス株式会社
代表者名 取締役社長 相原 雅憲
(コード番号 5805 東証第1部)
問合せ先 経営企画部 IR・広報グループ長 菅井 幹夫
(TEL. 03-5532-1911)

中期経営計画（2012～2014年度）について

・・・G R O W T H 2 0 1 4・・・

当社は、2012年度（2013年3月期）迄の中期経営計画を見直し、新たに2012～2014年度（2015年3月期）の昭和電線グループ中期経営計画「GROWTH 2014」を策定いたしましたので、その概要をお知らせいたします。

記

1. 背景とねらい

当社グループは、2010年2月15日に中期経営計画「GLOBAL SWCC 2012」を掲げ、経営環境の変化に対応するため、海外事業の拡大、国内基盤事業の強化、低炭素社会の実現に向けた新製品開発に向け取り組んでまいりました。その間、歴史的な円高の加速、欧州発の海外景気の低迷、資材価格の乱高下、そして、昨年の中東大震災と当社グループを取り巻く環境が大きく変化したことから、再度、社会インフラを担う企業グループとしての基本に立ち返り、2012年度からの中期経営計画「GROWTH 2014」を策定しました。

「GROWTH 2014」は、「GLOBAL SWCC 2012」の下、中国のパートナーである富通集団との業務・資本提携など海外事業の拡大に向けた諸施策をグループの実益につなげ、今後の成長に結び付ける3ヵ年と位置づけ、社会インフラ関連技術を核に低炭素社会の実現に向けた製品開発を推進し、海外も含めた新たな需要を取り込むことにより、グループの企業価値向上を図ってまいります。

2. 基本方針

これまで取り組んできました3つの重点施策を更に推し進め、確実な成果に結びつけます。

①海外事業で利益を創出

- ・ 高品質な銅荒引線事業の拡大
- ・ 中国内需向け産業用電線の現地生産拡大
- ・ 富通集団との合弁事業の体制強化と効率化
- ・ 東南アジアへのワイヤハーネス売上拡大

②国内基盤事業を強化

- ・ 継続的な事業構造改革により収益基盤を強化
- ・ 耐震性能に優れた建築用免震装置や電力用機器部品「SICONEX」を拡販
- ・ 通信ケーブルの競争力強化
- ・ サービス向上による汎用電線等の復興需要の取り込み
- ・ 調達機能の強化によるコスト低減の徹底

③環境配慮型製品開発を加速

- ◆超電導関連 ◆鉄道・自動車関連 ◆太陽光・原子力発電関連 ◆熱電変換素子 等

3. 中期経営計画の数値目標

1) 連結業績

(単位：億円)

	2011年度実績	2012年度	2013年度	2014年度
売上高	1,717	1,700	1,750	1,800
営業利益	19.4	25	35	48
経常利益	6.9	13	24	38
当期純利益	1.6	9	18	30
有利子負債	584	560	540	500
ROA	0.5%	0.9%	1.7%	2.7%

※ROAは、経常利益ベース

2) 配当方針

- ・配当性向30%以上の安定配当を実現できる財務基盤を構築する。

本件に対するお問合せ先：

昭和電線ホールディングス株式会社

経営企画部 I R・広報グループ TEL 03-5532-1911

以上